CLAIRトピックス――最近のクレアの動きや所管国の状況などを短くまとめて紹介します

シンガポール事務所

クアラルンプール市民の健康的な高齢化に向けて

2025年10月21日から23日まで、マレーシア・クアラルンプール市の要請により、高齢者介護予防分野の専門家派遣事業を実施しました。東京都神津島村保健センターの理学療法士である小泉裕一氏が専門家として参加し、日本の介護予防やフレイル対策に関する講義や実技指導、施設視察を行いました。

クアラルンプール市の高齢化率は現在9.2%ですが、2036年には約15%まで上昇する見込みです。市では高齢者に優しい都市づくりを進めており、これまでハード面の整備を中心に取り組んできましたが、ソフト面における日本の先進事例に強い関心を示しました。

専門家は、政策的背景から実践的な予防策まで幅広く紹介するとともに、介護予防には地域の多様な主体の連携と高齢者の主体的な参加が重要であると強調しました。各地域の特性を生かし、高齢者が自ら参加できる「通いの場」を設けることで社会参加が進み、自然に介護予防が促されると説明しました。実際、神津島村ではこうした取り組みにより要介護認定率が低下しており、専門家はその成果を紹介しました。

これを受け行われたワークショップでは、モスクを「通いの場」とする案や、チェスを活用した孤立予防策など、地域資源を生かしたさまざまなアイデアが出されました。専門家からは血圧計・握力計の設置やフレイル問診の導入など、すぐに実践できる提案もあり、参加者からはフレイル予防やコミュニティー施策などソフト面の重要性を学んだとの声が寄せられました。

本事業を契機として、クアラルンプール市がより健康で活力ある高齢者が暮らすまちとなることを期待します。

講義の様子

ワークショップの様子

北京事務所

甘粛省敦煌市で開催された「世界市長対話・敦煌」に参加しました

2025年10月11日から13日にかけて、甘粛省敦煌市において開催された「世界市長対話・敦煌」に、クレア北京事務所職員が参加しました。会議には、アルメニア、トルコ、ネパール、イタリア、ハンガリーなどからの参加者や敦煌文化の研究者らが集まり、文化遺産継承の実践や、国を越えた地域同士の相互協力などをテーマに対話と交流を行いました。

開会式では、甘粛省人民代表大会常務委員会俞成輝副主任があいさつを行い、敦煌市がシルクロードの重要な結節点として多様な文明の交流を担ってきたこと、また、その敦煌で開かれる本会議を通じて、文化遺産の保護・継承や国際都市間の文化交流を一層推進していくことが述べられました。

また、敦煌市が、アルメニアのコタイク州ガルニ・コミュニティー、トルコのマニサ県マニサ市、イタリアのヴェネト州ヴェネツィア市と新たに友好都市関係を結ぶ調印式が行われました。

会期中は、年間2,000万人以上の観光客が訪れる観光都市である敦煌市の視察も実施されました。参加者は、敦煌の文化を発信する大型体験型観光施設「敦煌印局」を見学したほか、4世紀から14世紀にかけて築かれた仏教石窟群である世界文化遺産・莫高窟を訪れ、敦煌市における文化遺産の保護と観光産業の推進に関する取り組みを間近に体感しました。

開会のあいさつ

「敦煌印局」にて取材を受ける

ニューヨーク事務所

国際市・カウンティ支配人協会（ICMA）年次総会に参加しました

2025年10月25日から29日にかけて、フロリダ州タンパ市で開催されたICMA（International City/County Management Association）年次総会に参加しました。本会議には、米国を中心に世界各国の地方自治体関係者が多数参加し、行政運営や地域課題の解決に向けた最新の取り組みが紹介されました。クレアニューヨーク事務所からはGlobal Good Governance Meetupセッションで職員が、日本の地方自治体が直面する現状や課題について発表したうえで、参加者と活発な意見交換を行いました。各国の行政制度や地域特性は異なるものの、それぞれの地域の課題解決に向けて、日々努力を重ねている点で多くの共感を得ました。各国の自治体関係者との対話を通じ、課題解決の多様な視点や新たな政策手法を学ぶことができ、大変有意義な経験となりました。

ICMA 会長の Michael Land 氏との写真

クレアニューヨーク事務所職員と参加者の意見交換の様子

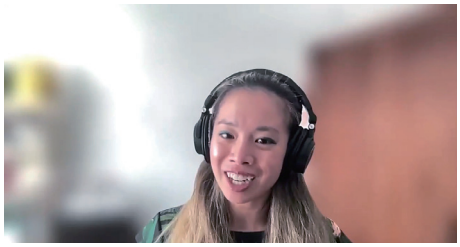
ロンドン事務所

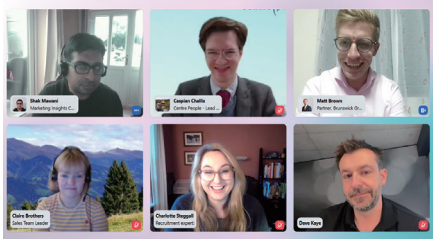
英国 JET プログラム終了者向けキャリアフェアを開催

2025年10月1日、クレアロンドン事務所は在英日本大使館およびJETAA（元JET参加者の会）UKと共同で、英国JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）終了者を対象としたキャリア形成支援イベントをオンライン形式で開催しました。JET参加者にとって帰国後のキャリア形成は大きな不安要素であり、特に若い参加者の中には英国での就職活動が初めてという人も少なくありません。今回のイベントはそうした不安を解消し、キャリア構築を支援することを目的に企画し、126人が参加しました。

開会にあたりJETAA UK会長ジャズ・ラウ氏からあいさつがあり、その後、英国でのキャリア形成に関する体験談や公的機関などへの就職をテーマとしたパネルディスカッションを実施しました。さらに教育・観光などの分野から有識者を招いた少人数グループに分かれたセッションパートでは、参加者が登壇者と直接意見交換する機会を設け、履歴書の個別添削をする「CVクリニック」も実施しました。

参加者からは活発な意見や質問が寄せられ、それぞれにとって今後のキャリアを考える上で有意義な機会となりました。


JETAA UK 会長ジャズ・ラウ氏によるあいさつ


パネルディスカッションの様子

パリ事務所

マルセイユ秋祭りに出展しました

2025年10月4日と5日の2日間、マルセイユのボレリー公園で「マルセイユ秋祭り」が開催されました。今年は過去最高の来場者数である1万6,400人を記録し、両日ともに会場の外では入場を待つ長蛇の列ができていました。

会場では将棋や折り紙など20のブースが並び、弓道や狂言のパフォーマンスも披露されました。そのほか、盆踊りでは来場者も一緒に踊る様子が見られるなど、秋祭りは大変盛り上がりました。

クレアパリ事務所もブースを出展し、パンフレットの配布や日本酒の試飲を通じて日本各地の魅力を発信しました。今後、日本旅行を予定している人も多く、「自然が多くて落ち着ける場所が良い」「観光客が知らないおすすめの地域はありますか」といった声が多く寄せられました。日本酒については、「アルコール度数が40%程度の強いお酒」という認識の来場者も一定数いましたが、実際に試飲してみると、「白ワインみたいで飲みやすい」「どこのお店で購入できますか」と日本酒に興味を持つ来場者が多くいました。

今回のイベントを通して、マルセイユの多くの人が日本へ高い関心を持っていることを身を持って感じることができました。

自治体を PR するクレアパリ事務所の職員

ソウル事務所

「日韓国交正常化 60 周年記念 全国知事会・日本の小都市 PR イベント」が開催されました！

近年、韓国では日本の地方を「小都市」と呼び、日本の地方についての関心が年々高まりつつあります。

こうした中、2025 年 11 月 11 日にソウル特別市内において、全国知事会主催による韓国内のメディア・旅行業関係者を対象とした小都市のプロモーションイベントが行われました。

本イベントは、翌 12 日に仁川広域市で開催された日韓知事会議に先立ち開催されたものです。イベント当日は、会長県である長野県をはじめ、計 9 県の知事・副知事が出席し、自県の観光資源などの魅力を紹介するとともに、各県ごとに設置された取材ブースでは、知事・副知事が韓国のメディア・旅行業関係者に対して個別に各県の魅力を自ら PR されていました。

イベント後には、在大韓民国日本大使公邸にてレセプションが開催され、日韓双方の関係者約 130 人が出席しました。レセプションでは、各県がブースを出展し、自県のお酒や特産品を振る舞うなど大いに賑わいました。

また、本イベントに合わせた SNS 企画として、クレアソウル事務所が運営するインスタグラム「トランドラン」を活用し、この企画の参加県に関するクイズの正解者の中から抽選で、参加県への航空券および宿泊券がペアで当たるキャンペーンが実施されました。

日韓国交正常化 60 周年という節目の年に、多くの知事・副知事が出席した本イベントは、各県のインバウンドへの熱意が感じられるものとなりました。

PR イベント

レセプション

シドニー事務所

名古屋市とシドニー市の姉妹都市周年交流を支援

名古屋市とシドニー市はこれまで、双方の動物園（東山動物園・タロンガ動物園）におけるコアラやゴリラをはじめとする動物交流のほか、高校生同士の交流など、多様な交流を展開し、2025 年に姉妹都市提携 45 周年を迎えました。

クレアシドニー事務所は 2025 年 10 月 24 日から 27 日にかけてシドニー市で開催された各種の記念行事を多方面で支援し、両市の連携強化に貢献しました。

特に、10 月 25 日にシドニー市庁舎で開催された「Japan Expo」では、名古屋市のブース出展をサポートしました。名古屋ブースでは、名古屋市長など名古屋市関係者が来場者に天むすや味噌カツ、ういろうなどの「名古屋めし」を振る舞うなど、名古屋の魅力ある食文化のほか、観光情報も紹介され、多くの来場者から関心が寄せられました。

また、シドニー市役所への表敬訪問やシドニー市主催の歓迎レセプション、シドニー中心部の公園内の「名古屋ガーデン」での記念植樹式にも同行し、両市の関係者同士の連携促進を後押ししました。

当事務所は現地拠点の強みを生かし、今後も豪州・ニュージーランドと日本の自治体間の交流を積極的に支援してまいりますので、ぜひご活用ください。

Japan Expo の会場の様子

レセプションでの動物交流紹介の様子

交流親善課

海外自治体幹部交流協力セミナー（パリ事務所管内）を実施しました！

2025 年 10 月 19 日から 25 日にかけて、東京都と香川県三豊市で、フランスおよびベルギーの自治体幹部 3 人を迎え、セミナーを開催しました。東京都では、明治大学の木村俊介教授による日本の地方自治制度の講義を受けた後、観光庁を訪問し、日本の観光施策について学びました。さらに、東京都庁を訪問し、日本の地方自治体および議会の仕組みについて見学しました。

三豊市では、市長表敬訪問のほか、インバウンド誘客促進を目的とした観光戦略の概要説明が行われ、意見交換の場も設けられました。また、父母ヶ浜や仁尾地域を訪れ、地域の取り組みや歴史文化について理解を深めました。瀬戸内国際芸術祭の会場となっている粟島の視察では、島内の芸術作品や展示を通じて、地域資源を活用した文化振興の取り組みを確認しました。

いずれのプログラムも参加者の関心が高く、観光振興や地域活性化をテーマに活発な意見交換が行われました。

山下三豊市長（左）表敬訪問

父母ヶ浜で説明を受ける参加者

経済交流課

プロモーションアドバイザーを派遣しました！

クレアでは、自治体の海外プロモーションを支援するため、専門的知見、ノウハウ、経験をもつ専門家（プロモーションアドバイザー※以下、「PA」）を派遣する事業を実施しています。ここでは、2025 年度の派遣実績として、福井県越前市への派遣事例をご紹介します。

越前市では、生活様式の変化や価格競争により越前和紙産業が市場縮小・後継者不足に直面しています。この課題に対し、PA として派遣された株式会社ゼロファーストデザイン佐戸川清氏は、「価格でなく価値で勝負するブランディング」への転換を助言。千年以上の歴史や紙幣にも使われる品質、清らかな水などの地域資源や女性の職人が多いことを強みとし、欧州で重視されるサステナビリティやエシカル消費と結び付ける戦略を提案しました。また、フランス市場を視野に展示会出展や SNS 発信、動画、ワークショップなどで価値訴求を図り、市・事業者・行政（県・国）が連携して販路拡大を進める重要性を示しました。

市は、ブランド戦略を基に情報整備・市場調査を進め、段階的に販路開拓を図っていくとのことで、成果を得る機会となったようでした。

越前和紙紙漉き現場視察

越前市職員への助言の様子

【お問い合わせ】
経済交流課　Tel：03-5213-1726　Mail：keishin@clair.or.jp

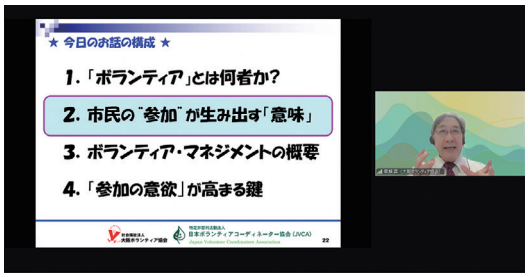
多文化共生課

2025 年度地域国際化協会職員国内研修（事業担当者向け）を開催しました

クレア多文化共生課では、地域の多文化共生を担う地域国際化協会職員の専門性のさらなる向上などを目的に、毎年研修を実施しています。今回は「地域国際化協会におけるボランティアコーディネーション」をテーマにオンラインで開催し、32 人に参加いただきました。

研修前半では、日本ボランティアコーディネーター協会の早瀬昇理事より「ボランティアに係る基礎知識」についてご講義いただきました。また、研修後半では、同じく早瀬理事より「地域国際化協会の業務で活用できるボランティアコーディネーション」についてワークショップを実施していただきました。ワークショップではグループ毎に活発な話し合いが行われました。

参加者からは、「新しい視点を持つことができました」「今後ボランティア業務に役立てられるマインドを学べました」などの声が寄せられ、大変好評をいただきました。ご意見などを生かして、次年度もさまざまな事業を企画してまいります。引き続きご協力をお願いいたします。



講義の様子

JET プログラム事業部

2025 年度第 2 回 PA 研修会を開催しました！

2025 年 9 月 25 日と 26 日の 2 日間、全国から東京都に 65 人の取りまとめ団体アドバイザー（PA：Prefectural Advisor）が集まり、第 2 回 PA 研修会を実施しました。

PA は、JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）参加者と任用団体の相互理解を促進させるほか、相談窓口としてサポートを行う重要な役割を担っています。今回の研修会は、第 1 回 PA 研修会に続き、「Mediation（折衝・調整）」をテーマに実施しました。

初日は、カイゼン・トレーニング・ソリューションのポール・ケイッツ氏による「折衝力向上」に関する基調講演から始まり、その後、新任 PA 向けに基本スキルに関する講義があり、2 年目以上の PA を対象に北海道の PA による事例発表が行われました。初日の最後は、PA 同士がネットワーキングセッションの中で、仕事の状況や課題について話し合いました。

2 日目は、JET プログラム同窓会・東京支部の代表が、JET 同窓会コミュニティーの再構築について講演しました。次に、DBT 東京の高木美恵氏が、相談を求める人への適切な対応について講演しました。さらに、岡山県と長野県の PA による事例発表を経て、第 2 回研修会の最後は、PA がよくある課題を一緒に解決する「実践的な問題解決」のセッションで締めくくられました。

来年度も、PA 研修会を企画しており、全国の PA に対する支援を通じて、さらなる JET プログラム参加者への支援を提供できるように努めてまいります。

ネットワーキングセッションの様子